

足元の暮らし向きはわずかに悪化、先行きも悪化見通し

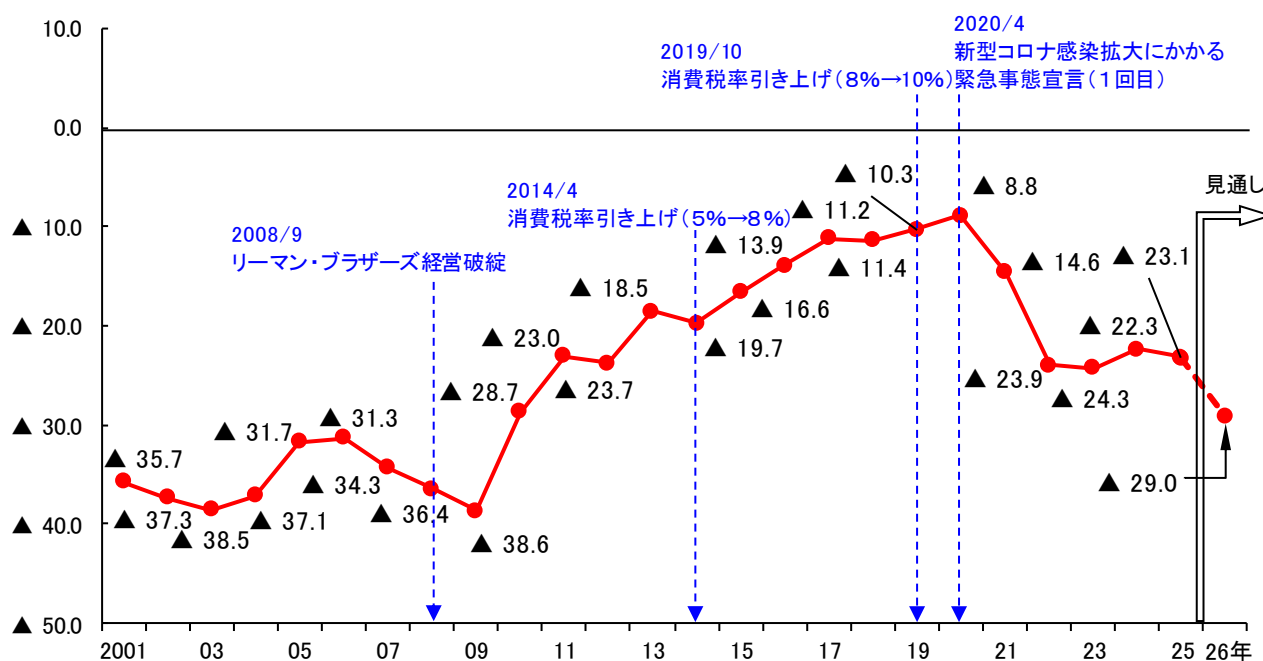
～購買力が徐々に削られ、家計の消費マインドの改善まで至らず～

当行では、山陰地方の消費動向を把握するため、鳥取・島根両県内の消費者を中心にアンケート調査を実施した（調査要領は下記参照）。

足元（2025 年 11 月）の暮らし向きについて尋ねたところ、1 年前に比べて「良くなった」が 6.6%、「悪くなった」が 29.7% となり、「暮らし向き判断 D I（「良くなった」割合－「悪くなった」割合）」は前回調査（▲22.3）比 0.8 ポイント減の▲23.1 と 2 年ぶりに低下した。

なお、先行き（2026 年）の「暮らし向き判断 D I」は、5.9 ポイント減の▲29.0 と低下する見通しとなっている。

図表 1. 暮らし向き判断 D I（「良くなった」割合－「悪くなった」割合）の推移



【調査要領】

1. 期 間 2025 年 11 月 4 日～11 月 18 日
2. 対 象 鳥取県・島根県の在住者
3. 調査方法 当行営業店等の店頭にて web アンケートを依頼、または配布した調査票を郵送により回収
4. 回 答 数 配布数 2,480 枚、有効回答数 512（回収率 20.6%）
5. 回答者構成比 10・20 代 6.1%、30 代 14.1%、40 代 25.3%、50 代以上 54.5%

〔調査結果の概要〕

1. 暮らし向き

○足元（2025 年 11 月）の「暮らし向き判断D I」は、前回調査（▲22.3）比 0.8 ポイント減の▲23.1 と 2 年ぶりに低下した。先行き（2026 年）は▲29.0 とリーマン・ショックからの回復途上にあった 2010 年（▲28.7）に近い水準まで低下する見通しとなっている。

2. 総収入の動向

○「総収入判断D I」は前回調査比 0.7 ポイント増の 14.4 と 4 年連続で上昇した。

3. 消費生活の動向

○「消費支出額判断D I」は、前回調査比 8.7 ポイント増の 64.0 と 2 年連続で上昇した。

○消費生活の水準（満足度）は前回調査に比べて低下した。

4. 今後の家計の重点

○例年と同様に「健康増進」や「貯蓄の充実」などが上位となった。

○「貯蓄の充実」の減少幅が 2022 年を超える大きさとなるなど、家計が意図せざる支出増加を強いられている様子がうかがわれた。

5. 家計支出の動向

○この 1 年間で特に支出が増えた費目は「食料・外食費」が最も多く、以下、「水道・光熱費」、「交通費（ガソリン代含む）」など食料品やエネルギー価格の上昇が影響した費目が上位を占めた。一方、特に支出が減った費目のうち、最も回答割合が多かったのは「旅行・レジャー・娯楽費」だった。

○今後 1 年間で特に支出を増やしたい費目は「旅行・レジャー・娯楽費」が最も多く、以下、「食料・外食費」、「交際費、小遣いなど」など外出型消費にかかる費目が上位を占めた。一方、特に支出を減らしたい費目のうち、最も回答割合が多かったのは「水道・光熱費」だった。

6. 貯蓄動向

○1 年前と比べた貯蓄残高について「増加した」が「減少した」を上回った。

○貯蓄残高は『500 万円未満』が 5 割強を占めた。

7. 雇用に対する不安

○年代が上がるにつれて失業・廃業を心配する割合が高くなる傾向がみられた。

8. 「物価高騰による家計状況と対策」について

○家計状況を「極めて厳しい（赤字）」とする回答が全体の 2 割を占めた。

○ここ 3 年程度で見直した固定支出の項目として、全体の 4 割強が「携帯端末契約」や「保険（生損保）契約」を挙げている。

本調査の詳細版については [当行HP「山陰の経済情報」](#) をご覧ください。